

尺度使用マニュアル

< 尺度名 >

日本語版パラノイア・チェックリスト

< 測定概念 >

被害妄想は、“自分が攻撃されている、悩まされている、だまされている、迫害されている、陰謀を企てられているという誤った信念”と定義される（American Psychiatric Association, 1994）。近年、妄想ほど奇異でないものの被害妄想に類似した内容の観念（以下、“被害妄想的観念”とする）は、DSM 等の精神疾患の診断基準を満たさない健常者にも高頻度で見られることが指摘されている。本尺度は、健常者にみられる被害妄想的観念を測定対象としている。また、妄想的な観念を多面的に捉えるべきとの指摘を反映し、被害妄想的観念の「頻度（どのくらい頻繁に考えるか）」「確信度（どのくらい強く確信しているか）」「苦痛度（どのくらい苦痛か）」の3側面についてアセスメントが可能である。

< 予想される適用範囲 >

大学生以上であれば適用可能と思われる。

< 尺度構成手続き >

Freeman, Garety, Bebbington, Smith, Rollinson, Fowler, Kuipers, Ray, & Dunn (2005, *Br J Psychiatry*) が作成した the Paranoia Checklist の日本語版である。原著者の了解を得て日本語訳を作成し、バックトランスレーションの結果を踏まえ、原版との内容の整合性が確認された。原版は18項目であるが、項目得点分布の歪み等を考慮し9項目を削除したため、日本語版は全9項目となっている。なお、項目の削除を行っていない18項目の日本語版については「出典文献」の項を参照のこと。

< 信頼性 >

大学生244名を対象とした調査の結果、本尺度のCronbachの係数は「頻度」で $= .90$, 「確信度」で $= .88$, 「苦痛度」で $= .91$ であり、十分な内的一貫性が認められている。再検査信頼性は確認されていない。

< 妥当性 >

因子的妥当性については出典文献を参照のこと。妄想的観念を測定する Paranoia Scale (Fenigstein & Vanable, 1992) および Peters et al. Delusions Inventory (Peters et al., 1999) との関係から、本尺度の収束的妥当性が確認されている。また、本尺度と特性不安、自尊心、社会不安、特性怒りおよびソーシャル・サポート測定尺度との関連から本尺度の

構成概念妥当性が検討されている。詳細は出典文献を参照のこと。

<採点方法>

9項目各々について、「頻度」「確信度」「苦痛度」の3側面について回答を求める形式である。回答方法は5件法で、日本語版では、頻度は「1 = 全く考えたことがない, 2 = 少し考えている, 3 = やや考えている, 4 = かなり考えている, 5 = いつも考えている」, 確信度は「1 = 全く信じていない, 2 = 少し確信している, 3 = やや確信している, 4 = かなり確信している, 5 = 完全に確信している」, 苦痛度は「1 = 全く苦痛でない, 2 = 少し苦痛である, 3 = やや苦痛である, 4 = かなり苦痛である, 5 = とても苦痛である」としている。各下位尺度について, 9項目の得点を総計する。得点が高いほど, 頻度, 確信度, 苦痛度が高いことを示す。

<尺度の使用について>

教示は「他人が自分を困惑させようとしているのではないか, という考えや心配, 疑念は多くの人にみられます。以下の項目は, そのような考えのいくつかをリストアップしたものです。各々の項目に対し, (1) どのくらい頻繁に考えるか, (2) どのくらい強く確信しているか, (3) どのくらい苦痛か, の全てについて, 1~5のうち最もあてはまるものをつけてください」である。

なお, 下位尺度を単独で使用することも可能であろう(「頻度」のみを測定する, など)。

<出典文献>

山内貴史・須藤杏寿・丹野義彦 (2009). 日本語版パラノイア・チェックリストの因子構造および妥当性の検討 パーソナリティ研究, 17, 182-193.

なお, 原版から項目を削除していない日本語版については, 以下の文献を参照のこと。

山内貴史・須藤杏寿・丹野義彦 (2007). 日本語版 Paranoia Checklist の作成および信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 16, 114-116.

<連絡先>

山内貴史(東京大学大学院総合文化研究科)

e-mail: takashiyamauchi@beck.c.u-tokyo.ac.jp

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

出典を明記のうえ, ご自由にご使用ください。